



# Weekly Market Report

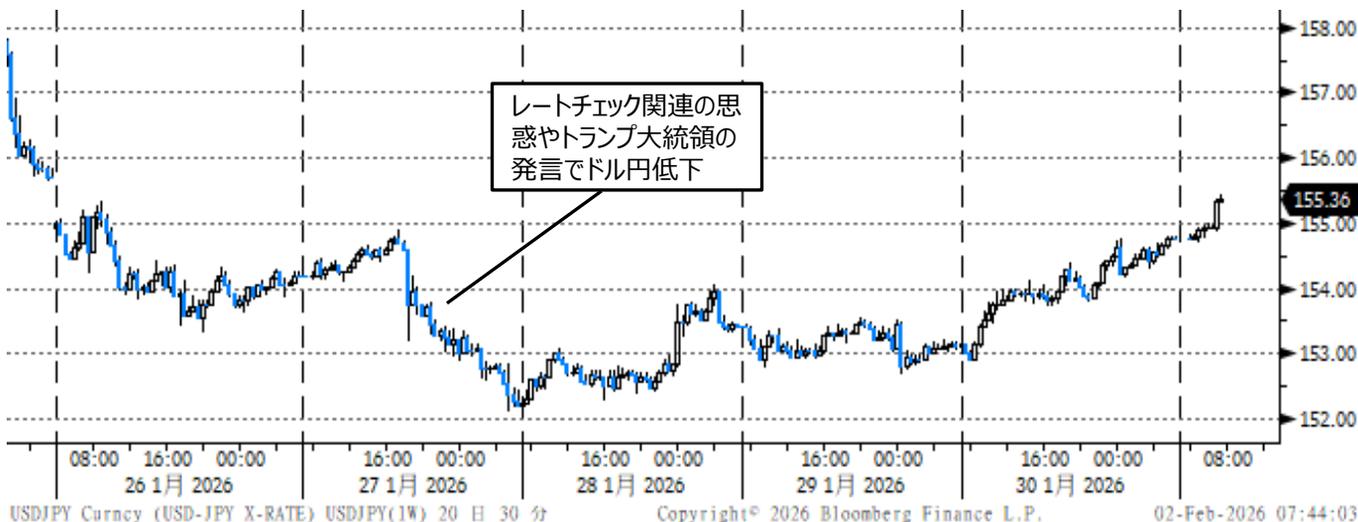
Feb 2, 2026

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

為替介入への警戒感が根強い中、雇用統計の結果には注視したい

### USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

### コメント

先週のドル円相場は、前週末のレートチェック関連報道や片山財務相の円安牽制発言から介入警戒感が強くスタートし、一時152.10円まで円高進行。その後トランプ大統領から「ドル安を懸念していない」とのドル安容認発言を受けてドル売りが進行するも、ハッセント財務長官が「為替介入は行っていない」、「米国は常に強いドル政策をとっている」と発言したことでドル売りは一服し、153円台半ばまで戻した。FOMCでは政策金利が据え置かれたが、市場予想通りであったため為替への影響は限定的であった。週末には高市首相による円安容認発言を受けて円売りに転じ、さらにトランプ大統領が次期FRB議長に比較的タカ派色が強いと見られているケビン・ウォーシュ氏を指名する意向を表明したことでドル買いが進行し、結果154円台後半で越週。今週前半は雇用統計を前に方向感に乏しい展開を予想するが、FOMC声明で「失業率には安定化の兆候がいくつか見られる」と評したことに反して、雇用統計の結果が想定外に下振れた場合には警戒しておきたい。(市場営業部/渡邊)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
2/2(月)	ISM製造業景況指数 (米国)	51.9
2/4(水)	ISM非製造業景況指数 (米国)	53.4
2/5(木)	ECB政策金利 (欧州)	2.15%
2/6(金)	失業率 (米国)	4.4%
2/6(金)	非農業部門雇用者数 (米国)	7.2万人

### USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

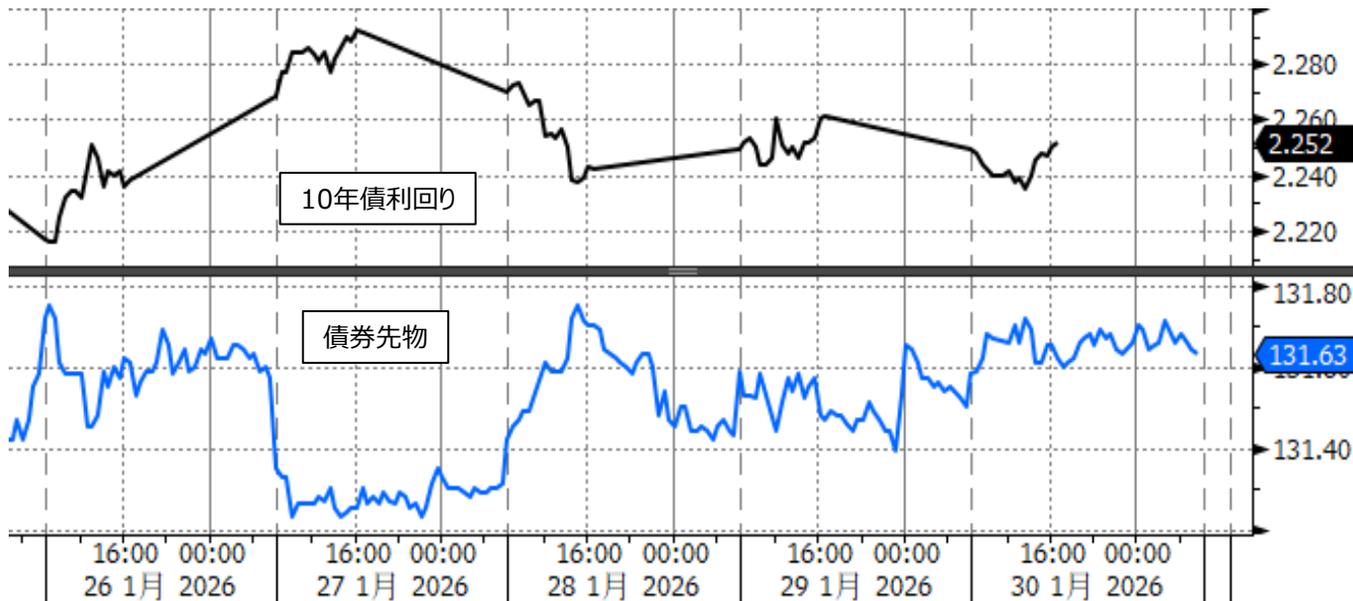
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
黒川隼汰	154.00 – 157.00	衆院選を前に積極的な取引は手控えられるか。週末まではじり安を予想。
山口愛	154.00 – 157.50	今週はNFPや米経済指標、各国中銀関係者の発言に注目。米金利動向を背景にドル高・円安基調が続きやすいと予想。

## 2. 円金利相場概況

日米両政府のレートチェックによる為替変動に振らされる展開

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 30 日 30 分 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 02-Feb-2026 07:45:41

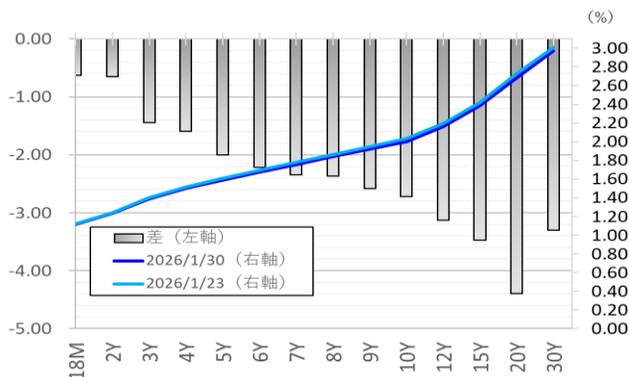
### コメント

(出所) Bloomberg

先週の10年国債金利は、2.22-2.28%程度でのレンジ推移となった。週初は先週末の日米両政府のレートチェックを実施したとの見方からドル円が153円台まで円高進行、インフレ懸念が後退したことで債券にも買いが入り、先週末から0.05%下げて2.20%からスタート。根強い財政懸念もくすぶり、一時2.28%程度まで上昇。28日はドル円が152円台まで円高が進んだことや、40年入札の堅調な結果を背景に2.24%程度まで金利低下。29日には衆院選の自民党の議席数が過半数を上回る見通しとの報道で財政拡張の警戒感が強まった一方、日銀買い入れオペはやや強めの結果と受け止められ、反応は限定で2.24%から2.26%のレンジ推移。30日は東京都区部CPIが市場予想を下回り日銀の利上げ観測が後退したことや、2年債入札が強めの結果となったことで金利低下し2.25%で越週となった。

今週は1月日銀会合の主な意見、衆院選を巡る政治報道に注目したい。(市場営業部/堀)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



JYS010 Curncy (JPY SWAP OIS 10Y) Yen SWAP 5Y 日足 16APR2020-02FEB2026 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 02-Feb-2026 07:46:20

(出所) Bloomberg

### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
飯野りさ子	2.20% - 2.35%	1月日銀会合の主な意見に着目しつつ、週末の衆院選までレンジ推移を予想。一方で選挙報道による急な変動に注意したい。
伊豆浦有里恵	2.20% - 2.38%	今週は外部要因や政策不透明感を意識した神経質な地合いが継続。国内外の経済指標や政策イベントを注視したい。

### 3. 今週のトピックス

#### ユーロ相場動向

トランプ政権の対外的な強硬姿勢を受けたドル離れの動きから、当面のユーロ相場は底堅い展開か

#### <ユーロ圏の経済状況>

1月のユーロ圏総合PMIは51.5と前回12月と同水準となり、製造業PMIが49.4（前回48.8）に改善したものの、サービス業PMIは51.9（前回52.4）に悪化する結果となった【図表1】。財政支出の拡大を受けたドイツ景気的好調さが目立った一方、フランスは予算を巡る政治的な混乱から景気の低迷が続いているが、ユーロ圏全体では緩やかな回復基調といえそうだ。

2025年10-12月期のユーロ圏実質GDP成長率は前期比+0.3%と横ばいであったが、2025年通年の成長率は1.5%に改善。インフレについては、ユーロ圏の12月HICPは総合で前年比+1.9%、コア指数は+2.3%とほぼ横ばいが続いている。

#### <ECBの金融政策>

昨年12月のECB理事会では、預金ファシリティ金利が2.00%に維持され、4会合連続の据え置きとなった。ラガルド総裁からは「今後の金利調整はデータをみながら会合ごとに判断していく。」との発言があったが、ECBの経済見通しでは、2026年のコアCPI見通しが前年比+2.2%、GDP成長率は+1.2%にいずれも上方修正されており、ユーロ圏景気に対する強気の見方が示されている。

市場では2026年中は政策金利が据え置かれ、2027年からの利上げ開始が見込まれているため、ドイツの2年、10年国債金利は緩やかな上昇基調となっている【図表2】。

#### <当面のユーロ相場見通し>

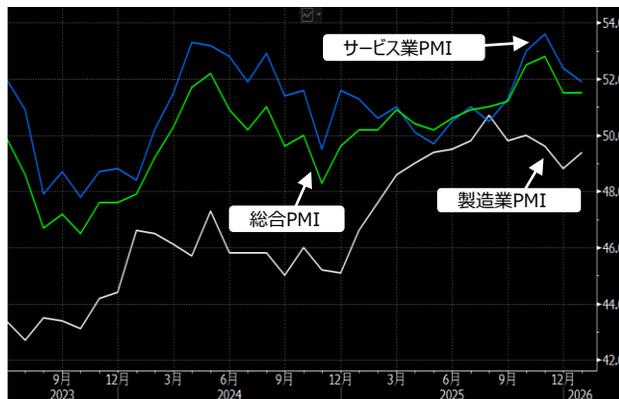
ユーロドル相場は、NY連銀がドル円に対するレートチェックを行ったとの報道を受けたドル売りの加速に加え、トランプ大統領からの「ドルの下落は懸念していない。」との発言によって、ユーロドルは1/27に節目の1.2000を上抜け、2021年以来の高値となる1.2081を付けたが、その後反落する展開となっている。

当面のユーロ相場については、トランプ政権の強硬な対外政策によるドル離れでユーロへの資金シフトが続くとみられるほか、ECBの利下げ終了観測から底堅い推移が見込まれる。ただし、フランスの予算審議の先行きが不透明なことや、グリーンランドの領有を巡る米国との対立への懸念がユーロ相場の上値抑制要因になってきそうだ。また、シカゴ通貨先物の投機筋ポジションでは、ユーロロングが13万枚程度まで拡大しており、これ以上の積み上げが難しくなってきたこともユーロの上値の重さにつながってくる【図表3】。

当面のユーロ相場レンジは、対ドルでは200日移動平均線をサポートとみた1.1600-1.2300、ユーロ発足以来の高値を更新していた対円相場は180.00-187.00円のレンジを想定している。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

【図表1】 ユーロ圏購買担当者景気指数 (PMI)



(出所:Bloomberg)

【図表2】 ECB政策金利と独2・10年金利 (%)



(出所:Bloomberg)

【図表3】 ユーロドル相場とシカゴIMMポジション (枚)



(出所:Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会